

平成16年度プロジェクト研究評価報告

事前評価
毎年度評価
終了評価

プロジェクト研究課題名	食品供給における安全・安心の確立ニーズがもたらすフードシステム及び貿易構造の変化の解明
研究実施期間	平成17年度～19年度
プロジェクト研究の概要	安全・安心な食料供給のための措置の費用便益評価に関して、欧米諸国の実態を分析し、日本型の費用便益評価システムを構築する。食料の安全確保のための輸入禁止等が世界の貿易構造及び国内のフードシステムに与える影響を、定量的に分析する。フードシステム構成主体の食の安全・安心に関する意識、リスク認知及びリスク管理の実態を分析する。
<p>評価結果</p> <p>評価会議名及び開催日 (書面評価)</p> <p>評価委員名 吉川泰弘 (東京大学大学院教授) 中嶋康博 (東京大学大学院助教授) 大賀圭治 (日本大学教授)</p> <p>評価基準 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い (研究計画の妥当性のみ A：妥当 B：概ね妥当 C：見直しが必要 D：妥当でない)</p> <p>総合評価基準 1．課題は重要であり、内容は適切 2．課題は重要であるが、内容の見直しが必要 3．課題は不適切</p>	<p>【評価項目ごとの評価】()は3名の評価委員の投票数を示す。</p> <p><必要性> 政策の企画・立案への貢献：A評価(3) 社会的ニーズへの対応：A評価(3) 新規性・独創性：A評価(1)、B評価(2)</p> <p><効率性> 研究計画の妥当性：A評価(2)、B評価(1)</p> <p><有効性> 研究目標の達成可能性：A評価(2)、B評価(1)</p> <p><優先性> 次年度に着手すべき緊急性：A評価(3)</p> <p>【総合評価】 課題は重要であり、内容は適切(3)</p> <p>【評価委員からの主な意見】 適切な費用便益評価システムが出来れば政策的価値は高い。国際的視野に基づいたわが国の食品の安全・安心政策の構築に大いに寄与することが期待される。国民は客観的な食料の安全の評価を求めている。</p> <p>費用便益の評価手法の研究は先進国ではかなり進んでいる。日本型の評価手法という考え方は新しいが、その方法の普遍性をどう説明するかを意識しておく必要がある。システムの構築には対象をしっかりとらなければならない。</p> <p>研究計画は包括的であり、フードシステムに着目した分析視点は妥当であり、研究手法も適切なものである。この課題は今年度にも着手すべき緊急の課題であり、出来るだけ早く研究成果が利用できるようにすることが望ましい。</p>
今後の対応方針	<p>日本型の費用便益評価システムについては、対象とする食品をしっかりとら、各国の評価手法を比較検討し、それらとの整合性に留意したシステムを構築することとする。</p> <p>課題の緊急性に対応するために、中間成果の取りまとめと行政への説明を随時速やかに実行していくこととする。</p>